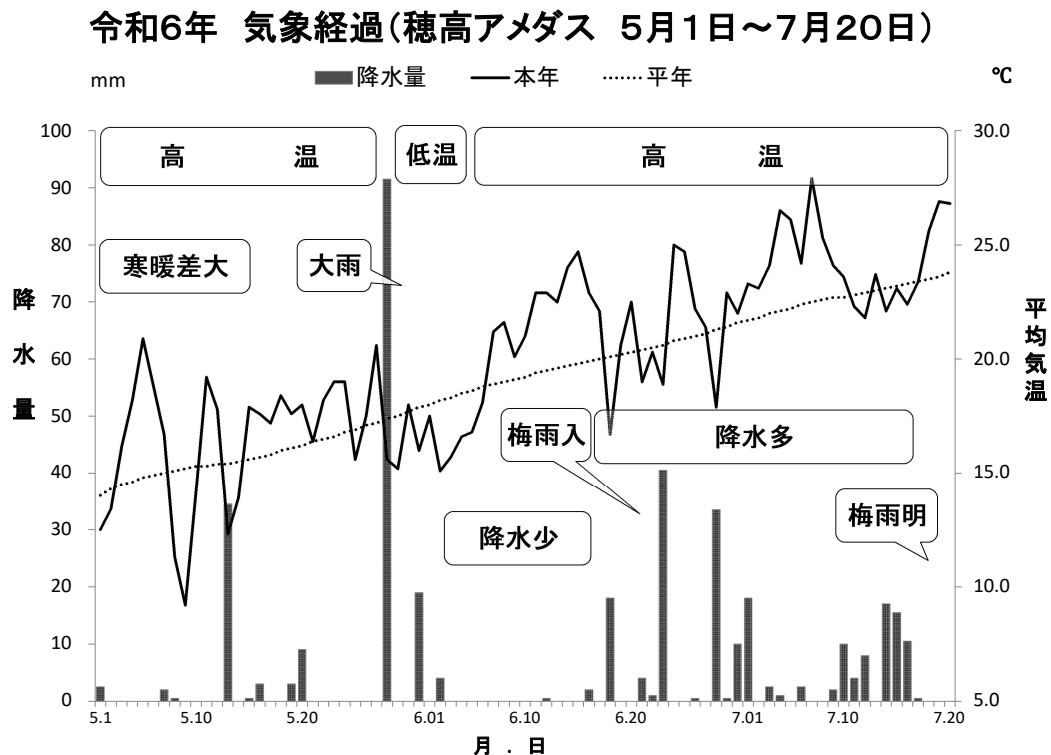


令和6年 作物技術普及情報 第14号

(水稻の生育状況、生育予測・刈り取り開始予測他について)

1 気象状況



梅雨入りはかなり遅れ、6月21日頃に平年より14日遅く梅雨入りし、梅雨入り後は、雨の日や降水量も多い状況でした。

7月18日頃に平年より1日早く梅雨明けし、その後の気温は高温となっています。

2 水稻の生育状況（7月20日現在）について

- 定点圃場の「あきたこまち」の出穂期は7月21日で、平年より7日早でした。「コシヒカリ」も止葉の抽出が始まっています。

生育進度は「あきたこまち」「コシヒカリ」で平年より5～7日早で、昨年並みにかなり早まると思われます。

現地の4月末～5月初旬田植圃場の「美山錦」等の早生品種は出穂期～穂揃い期を迎えています。また4月末～5月初旬田植圃場の「コシヒカリ」も飛び穂が見られており、生育は昨年並みにかなり早まっています。

安曇野市 豊科 標高550m 5月15日植(稚苗)の場合										
コシヒカリ		幼穂長 2mm	幼穂長 10mm	出穂期	あきたこまち			幼穂長 2mm	幼穂長 10mm	出穂期
稚苗		の実測日	の実測日	の予測日	稚苗			の実測日	の実測日	の実測日
7月21日以降 平年並気温の場合		7月11日	7月18日	8月3日	7月21日以降 平年並気温の場合		7月2日	7月9日	7月21日	
7月21日以降 2℃高温の場合		7月11日	7月18日	8月1日	7月21日以降 2℃高温の場合		7月2日	7月9日	7月21日	
平 年		7月16日	7月23日	8月8日	平 年		7月6日	7月13日	7月28日	
平年差	5日早(今後の気温が平年より2℃高い場合は7日早)				平年差	7日早				
注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期					注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期					

7月18日気象庁発表の1か月予報でも平均気温は高い確率80%で、期間の始めは気温がかなり高くなると見込まれてることから、松本地域における発育指数(DVI)による水稻生育予測(2℃高温版)を作成しましたので、追肥作業、カメムシ防除、いもち病防除等の作業準備にご活用ください。

標高別・移植日別の詳細は、松本農業農村支援センター 技術経営普及課のホームページに掲載した「松本地域における発育指数(DVI)による水稻生育予測(2℃高温版)7月20日現在」をご覧ください。

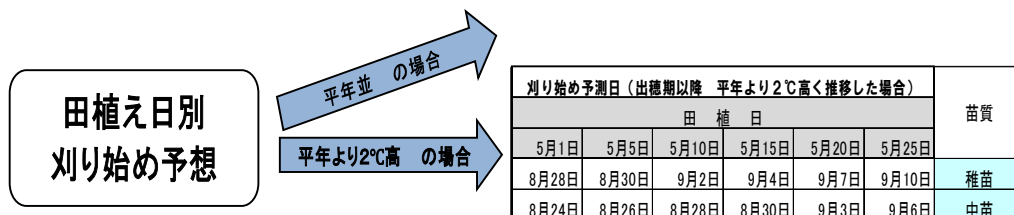
3 水稻の刈り始め予測（7月20日現在）

今後も高温が続き、出穂がかなり早まることが予想されるため、7月20日現在の水稻生育予測（2℃高温版）の出穂期予測を用いて、刈り始め時期を予測しました。

その結果、平坦地で4月末～5月初旬植の稚苗コシヒカリの刈り取り開始時期は、今後の気温が平年並みの場合は9月初旬から、今後の気温が平年より2℃高温の場合（昨年並み）は8月末からと予測されています。

【表は豊科定点圃場：標高540mの推定値（7月20日現在）です】
推定出穂期は7月20日現在の水稻生育予測（2℃高温版）です

コシヒカリ 標高550m	苗質	推定出穂期						刈り始め予測日（出穂期以降 平年並みの気温）						苗質
		田植日						田植日						
		5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	
稚苗	7月26日	7月28日	7月30日	8月1日	8月4日	8月6日	9月2日	9月4日	9月6日	9月9日	9月12日	9月15日	稚苗	
中苗	7月22日	7月24日	7月26日	7月28日	7月31日	8月3日	8月28日	8月30日	9月2日	9月4日	9月7日	9月11日	中苗	



以上から、「7月20日現在の水稻刈り始め予測（平年並み版、高温版）」を作成しました。高温が続くと予想されることから、**高温版を重視して、施設の稼働計画や収穫計画にご活用ください。**

標高別・移植日別の詳細は、松本農業農村支援センター 技術経営普及課のホームページに掲載した「水稻刈り始め予測（平年並み版、2℃高温版）7月20日現在」をご覧ください

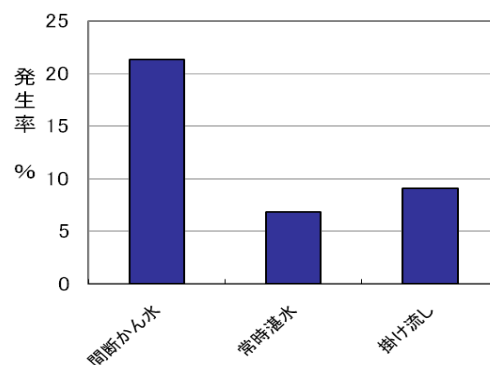
4 高温障害対策（出穂期前後のポイント）について

向こう1ヶ月の気温は「平年より高い」と予想されており、今年も高温登熟障害対策に特に注意をはらう必要があります。

これからのポイントは「出穂前後3週間の湛水」です。出穂から2～3週間が高温で経過（高温登熟）すると、白未熟米や胴割米の発生しやすい体質になります。

高温登熟による白未熟米、胴割米の発生防止のため、出穂前後3週間は、水を切らせずに、圃場に水が入っている状態としてください。

また水路に水が十分あり、生育が遅れる恐れがなければ、昼～夕方に4時間程度の掛け流しもお検討ください。



水管理と白未熟の関係(2010年、農業試験場)
注) 品種あきたこまち。発生率は水口区、水尻区の平均。
湛水処理は出穂前後2週間の常時湛水、掛け流しは出穂後2週間の掛け流し。

土壤水分を確実に保持し、根の老化防止と健全な登熟をはかるため、水管理の徹底をお願いします。

5 いもち病について

7月19日現在の葉いもち病感染好適条件の判定結果では、6月17～18日、7月1～3日、7月12日、7月16～17日頃に好適条件がありました。条件が揃えば7日後程度で病斑が確認できると思われます。

梅雨明け後は高温となっていますが、これまで日照が少なく湿度の高い状況が続いていたので注意が必要です。7月19日付で「イネいもち病に関する注意報」が病害虫防除所から発表されています。

直播圃場はいもち病が発生しやすいので、防除対策を必ず講じてください。また常発地帯・多発したことのある圃場、苗箱剤の未使用圃場、標高650m以上の圃場、5月下旬以降の晩植圃場等では圃場をよく観察していただき、発生状況によっては防除対策を講じてください。

6 カメムシ対策について

カメムシ防除として以下の点にご留意いただき、防除の徹底をお願いいたします。

- (1) 本田防除が最も重要です。散布適期は出穂10日後です。粒剤は効果の発現まで時間がかかるので、出穂7日後を目安に散布してください。

今年は出穂期がかなり早まっていますので、防除のタイミングを失しないようにお願いします。

この防除でアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫の本田定着及び幼虫の増加を防止し、アカスジカスミカメの成虫の本田侵入を防止します。

- (2) 斑点米カメムシ類は、稲の出穂以前は畦畔や休耕田等で生育増殖します。畦畔の草刈はすでに実施されていると思いますが、出穂期以降の草刈はカメムシを水田に追い込む恐れがあるので、出穂期から20日間程度は草刈りをお控えください。

7 夏まきそば栽培について

これから夏まきそばの播種時期を迎えます。「夏まきそば栽培のポイント」を作成しましたのでご参考下さい。